

札幌まつりのにぎわい

## 創成川の見せ物小屋

札幌の六月は夏の扉が開かれる、一年の中でもっともいい季節です。札幌まつりを境に、学生の制服も夏服に変わりますが、まつりで思い出されるのは創成川河畔の見せ物小屋です。懐かしい時代を散歩してみましょう。

ライラックの花が咲き、初夏の風が吹き始めると、札幌まつりの季節がやって来ます。まつりの会場となっている中島公園には多くの露店や見せ物小屋が立ち並びますが、昭和三十四年までは創成川河畔にサーカステントなどが軒を連ねていました。

札幌神社（現北海道神宮）のまつり（例祭）が六月十五日に決まったのは明治の初期です。見せ物小屋が出たのは明治二十五年（一八九二年）で、南二東三の現在の頓宮付近に「木暮サーカス」がトラを見せたのが初めと言われています。明治三十二年（二八九九年）に、見せ物小屋の場所は南一西一創成川西側に移りました。南一条から三条橋までの川べ

りには丸太を組んだテント張りの小屋がたくさん立ち並び、客寄せの口上やジンタの音がまつり気分を盛り上げました。小屋の床を見れば板の間から川の流れが目に入ったそうです。

創成川河畔と、大通西五丁目の二カ所で店開きし



昭和34年の創成川まつり

ていた見せ物小屋は、昭和五年から、大通西五が花壇となったため、小屋はすべて創成川河畔に集約され、にぎわいもここに集中しました。大きなたるの縁を走るオートバイや曲芸の小屋、露店の店先などからにぎやかな声が上がりました。



小屋が架かっていたころの創成川

そのような盛り上がりを見せた創成川に三十四年、大事故が起こりました。まつり気分には酔う白屋、定員五百人のところ、数倍の人が入ったサーカス小屋から突然火が吹き、たちまち隣接の小屋などに燃え広がりました。約五十人が重軽傷、ライオン五頭、トラ二頭、サル六匹が死ぬという大惨事でした。このため、古くから札幌まつりの名物であった創成川河畔の見せ物小屋も、道路が狭く、まつり用地には不適當と見なされ、現在の中島公園に移りました。

昨今の創成川河畔は国道五号へ続く交通量の多い大きな通りとして活躍しています。懐かしいまつりの雑踏は車の群れに取って代わられました。

(平成八年六月号・第三十二回)